

大間原子力発電所に関する地質調査の実施について

平成 26 年 6 月 4 日
電源開発株式会社

当社は、今般、大間原子力発電所に関する地質調査を実施することとしましたので、お知らせいたします。

この調査は、より一層のデータの充実を図る目的で調査範囲を敷地周辺へ拡げて地下構造を把握するものです。

本調査によって得られるデータについては、これまでに得られた地質調査のデータとあわせて総合的な評価・取りまとめを行います。

当社は、大間原子力発電所の耐震・耐津波安全性に関し、今後も情報を収集するとともに、必要に応じて最新の技術・手法を用いた調査等によるデータの充実を図り、信頼性の一層の向上に努めてまいります。

以上

【添付資料】

地質調査計画の概要について

地質調査計画の概要について

1. 調査の目的

今回の調査は、より一層のデータの充実を図る目的で、調査範囲を大間町から佐井村北部にかけての敷地周辺へ拡げて、地下構造を把握するものです。

2. 調査の概要

調査の項目、範囲及び調査概要は、下表及び図1に示す通りです。

今後、本調査によって得られる結果もあわせて、大間原子力発電所の耐震・耐津波安全性に係わる総合的な評価・取り纏めを行います。

項目	範囲	調査の概要	備考
弾性波探査①	敷地周辺 (大間町～佐井村北部、調査延長約25km)	<ul style="list-style-type: none"> ボーリング孔内の火薬を用いて発振した振動を地表に設置した受振器で受振し、地下構造を把握(図2、図3) 発振点は4か所程度を計画 	振動は、200m離れたところで震度Ⅱ程度、1秒以内に収まる程度の揺れ
弾性波探査②	敷地付近 (大間町北部、調査延長約10km)	<ul style="list-style-type: none"> 起振車(大型バイブレーター)で発振した振動を地表面等に設置した受振器で受振し、地下構造を把握(図3、図4) 	起振車による振動は、ごく近傍を除き人体が感じることはない程度の揺れ



図1 調査範囲

3. 調査の時期

調査は、必要な許認可手続きを経て7月から着手する予定です。

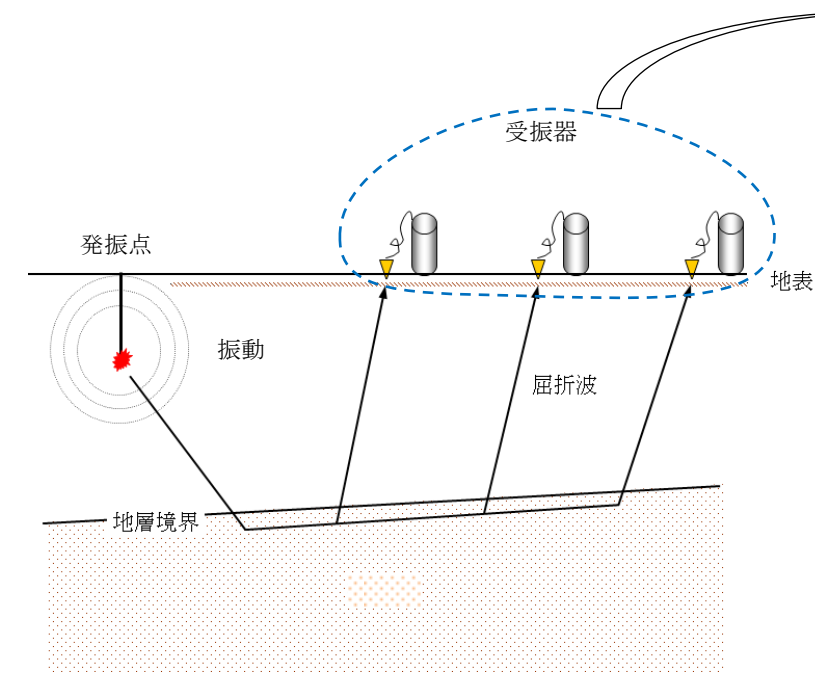


図2 弾性波探査①の調査概念図

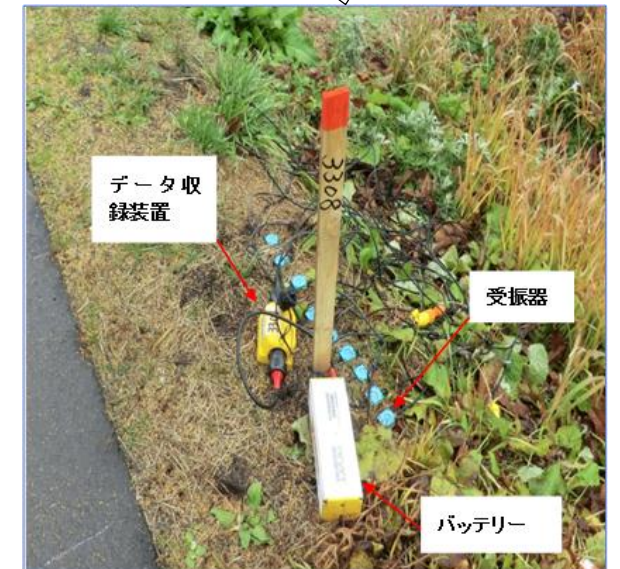


図3 受振器の設置状況(事例)



図4 弾性波探査②の調査の状況(事例)